

クリナップ®



知ってた?

見えないところまでステンレス。だから清潔。



STAINLESS BEAUTY

STEDIA

ステディア



*一部、ステンレス以外の素材も使用しています。

クリナップ®

キッチンから、笑顔をつくろう

株主の皆さまへ

第66期 第2四半期 報告書

2018年4月1日から 2018年9月30日まで

クリナップ®株式会社

〒116-8587 東京都荒川区西日暮里6-22-22



証券コード 7955

株主の皆さまへ

事業の「変革と創造」に向け、「攻めの経営」に徹する



代表取締役会長
井上 強一



代表取締役 社長執行役員
竹内 宏

■ 企業理念

家族の笑顔を創ります

■ 行動理念

私たちは、心豊かな食・住文化を創ります

私たちは、公正で誠実な企業活動を貫きます

私たちは、自らの家族に誇れる企業を創ります

厳しい事業環境を受けて、
遺憾ながら営業損失を計上しました。

新設住宅着工戸数が当初想定を下回り、リフォーム市場も伸び悩むなど、事業環境は依然として厳しい状況が続いています。

そうした中、当第2四半期連結累計期間の連結業績につきましては、売上高は前年同期比6.0%減となりました。また、利益面では、減収に加え、原材料価格の上昇、CM等の広告宣伝費の増加などもあり、営業損失の計上を余儀なくされました。

下期においては、システムキッチンにおいて再構築を行った新商品体系のもと、積極的な販売促進戦略の推進と原価・コスト低減の取り組みに注力していく方針です。しかしながら、事

業環境は引き続き厳しい状況で推移することが想定されるため、通期の業績見通しにつきまして、当第2四半期連結累計期間の業績も踏まえ、売上・利益ともに下方修正させていただきました(2018年10月31日公表)。売上高は前期比1.3%減、損益面では営業損失7億50百万円を計上する見込みです(前年同期は営業利益3億98百万円)。損失幅を最小限に食い止めるべく、全社一丸となって取り組んでまいります。

当期より、新中計「2018中期経営計画」をスタート。

当社は、当期より新中計「2018中期経営計画」をスタートさせております。前中計では、市場ニーズの変化を的確に汲み取りきれなかったという反省のもと、新中計では、事業の「変革と

創造」に挑戦する方針を掲げ、現在、「攻めの経営」を推し進めております。厳しい事業環境下での取り組みとなっていることから、営業損失を計上するなど苦難の船出となっておりますが、決して手を緩めることなく積極的な経営姿勢を貫いてまいります。

最も大きな「変革と創造」は商品面での取り組みです。主力のシステムキッチンにおいて、中高級市場でのシェアアップを目指すべく、商品体系の刷新を図っております。既に、富裕層向けの海外ラグジュアリーブランドの投入や、当社フラッグシップブランドの刷新(S.S.から新ブランドCENTROへ)などを、前期末までに完了させております。そして、2018年9月には、当社の中高級品の中核モデルである「クリンレディ」についても刷新を図り、新ブランド「STEDIA」を立ち上げました。「クリンレディ」は、発売から35年というロングセラー商品であると同時にベストセラー商品であり続けました。そのブランド名に固執することなく、新たな価値創造へ挑戦するという決意が、「STEDIA」立ち上げに注ぎ込まれております。

モノづくりの面では、「クリンレディ」の歴史を受け継ぎ、守るべきものを守る一方で、変えていかなければならないものを徹底的に検討し、新たな機能とデザインで仕上げました。「STEDIA」は、「クリンレディ」を超える新たな中核商品として誕生した自信作です。

当社は、9月からの営業方針を「STEDIAの販売に総力を結集し、キッチンシェアNo.1を目指す」とし、その実現に向け、当初計画を上回る広告販促費の投入を決断しました。女優の松たか子さんを起用したテレビCMや各種広告を制作・展開するなど、積極的な販促プロモーション活動を展開しております。

70周年を見据え、次のステージを目指します。

クリナップは、2019年10月に「創業70周年」を迎えます。この大きな節目を“新たな成長・発展スタートの年”とするためにも、現在の難局を乗り越え、クリナップが信じる新たな価値を社会へと浸透させていきたいと考えております。

株主の皆さまには、これからも引き続き、クリナップの経営にご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

「2018中期経営計画」の概要

創業70周年、
そしてその先へ

私たちCleanupは、
事業の「変革と創造」に挑戦します。

構造改革

- 1 中高級市場でのシェアアップ
- 2 低収益構造からの転換

成長戦略

- 3 第2の事業の柱構築
- 4 M&Aと業務提携

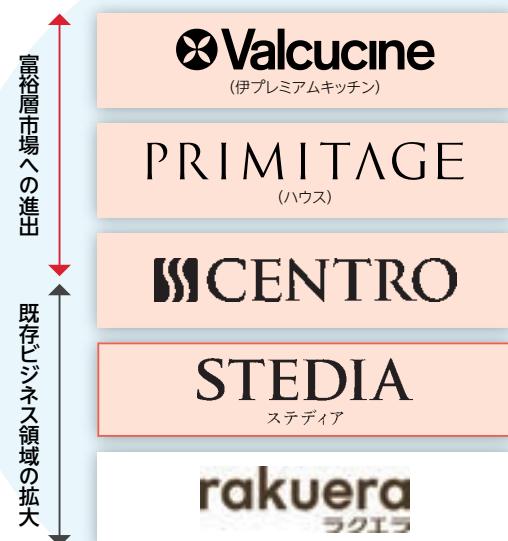
基盤強化

- 5 技術力強化
- 6 ブランドづくり
- 7 人づくり

特集: 新システムキッチン商品体系

中高級市場での シェアアップに向け 商品体系を刷新

■ 新システムキッチン商品体系



当社はこれまで、キッチンの専門メーカーとして、「クリナップ＝ステンレス」という差別化軸を立ち上げ、これに共感いただけるお客さまを増やす活動をしてまいりました。そして、創業70周年の節目において、当社は、大きく変わりつつある市場に的確に対応していくため、システムキッチンの商品体系を刷新しました。特に、中高級市場でのシェアアップを最重要課題と認識し、フラッグシップモデル「S.S.」を「CENTRO」へ、中核モデル「クリナップ」を「STEDIA」へとブランドを一新しました。

発売から35年、
ロングセラーにしてベストセラー商品
「クリナップ」

創業70周年
そしてその先へ向け、
新たな歴史を創るための
新ブランド

「STEDIA」
ステディア



四季ある国に磨かれて。
クリナップが辿り着いた答え。
暮らしの中で輝き続けるキッチン。

STEDIA

ステディア

システムキッチンのパイオニアである当社が、昭和58年に「買えちゃうシステムキッチン」として発売し、ベストセラーとなった「クリナップ」。LDK空間においてキッチンや周辺収納への高いデザイン性が求められるなか、これまでの「クリナップ」をさらに発展させ「STEDIA(ステディア)」が誕生しました。

これはSteady(不変の・堅実な)とDiamond(ダイヤモンド)を掛け合わせた造語で、「システムキッチンに求められる機能やデザインを磨き上げていく」という思いを含め、命名いたしました。

システムキッチンのトップブランド「クリナップ」の思いと実績を引継ぎ、次の時代を支える商品として育ててまいります。



女優 松たか子さん

テレビCMを核とした販促プロモーション!
“ずっと変わらない美しさ”松たか子さんが
ステンレスキャビネットキッチンの魅力を語る新CM公開!

新ブランドである「STEDIA」が世の中に広く認知されるように、8月21日から過去最大規模となるテレビCMを実施しました。

今回の新CMでは、購入検討層を含むあらゆる生活者に対し興味喚起を行うため、圧倒的な存在感と美しさをもつ松たか子さんを起用。新ブランド「STEDIA」の魅力であるステンレスキャビネット・洗エールレンジフードに迫るストーリーになっています。

CMは全部で3パターン!

「知ってた? ステンレスキャビネット篇」15秒
「知ってた? 洗エールレンジフード篇」15秒
「知ってた? STEDIA篇」30秒



CM動画は「STEDIA スペシャルサイト」にて公開中

<http://cleanup.jp/kitchen/stediasp>

主なトピックス

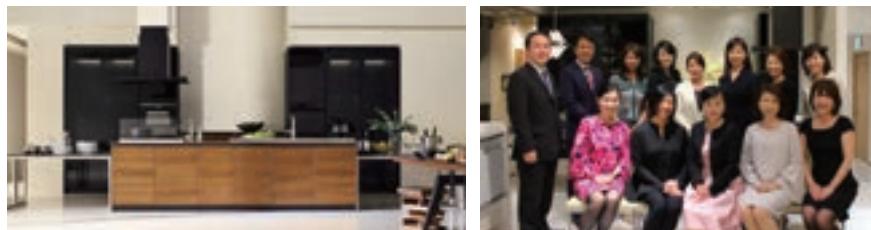
商品・サポート関連

CENTRO
アンバサダー

「CENTRO」の魅力を発信 有名サロナーゼ10名による「CENTROアンバサダー」誕生!

最高級ステンレスシステムキッチン「CENTRO(セントロ)」の魅力を伝える「CENTROアンバサダー」を発足し、キックオフイベントを3月28日に開催しました。

CENTROアンバサダーは、クリナップが運営する食文化情報コミュニティサイト「Dreamia Club」で活躍するサロナーゼより厳選された10名で構成されています。キックオフイベントでは、アンバサダーの皆さまに「CENTRO」の開発者から開発過程や特徴を紹介し、今後の活動概要を確認しました。



主な活動内容

- 1 担当月にキッチンタウン・東京の「CENTRO」展示コーディネーター
- 2 担当月にキッチンタウン・東京にて主催イベント開催
- 3 アンバサダー公式ブログにて「CENTROな暮らし」をテーマにリレーブログ発信
- 4 各人の主宰教室、SNSにて情報発信

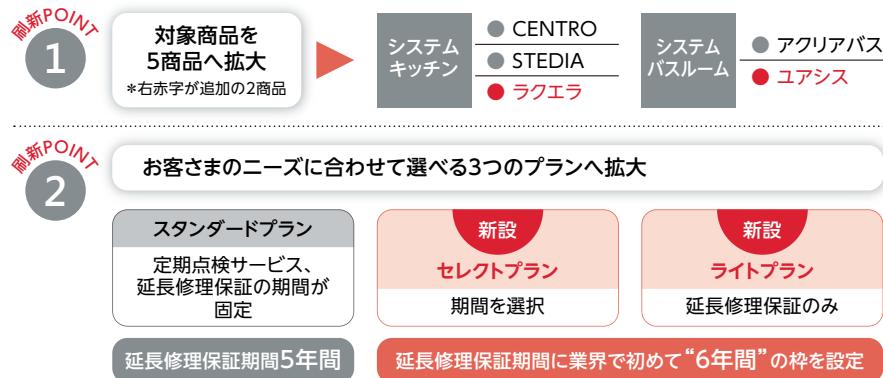
クリナップ
スマイル
会員制度

クリナップ商品の魅力を、サポート体制面からも高める! 有料サポート制度「クリナップスマイル会員制度」を刷新

ご購入いただいたお客さまに商品を安全・快適に使い続けていただくための有料サポートプログラム「クリナップスマイル会員制度」を、更なる顧客満足向上を目指して、9月3日より刷新いたしました。

クリナップスマイル会員制度は通常の保証に加え、更に充実したサービスを提供する目的で、2007年9月より運用してまいりました。今回のリニューアルにより対象商品の拡大と、従来のプランの他、新たに2つのプランを追加し、お客さまの様々なニーズにお応えできるようになりました。

新クリナップスマイル会員制度の詳細



ショールーム関連

ショールーム
アドバイザー

全国ショールームアドバイザーの制服を4月5日より一新! 気品と清潔感あふれる12種類の着回し



全国103か所のショールームでお客さまと接するショールームアドバイザーの制服を4月5日より新いたしました。気品と清潔感溢れる新制服を通じ、「心豊かな食・住文化」を創る企業として、ブランド価値向上を図ります。今回の制服デザインのポイントは、常にトレンドが変動する住宅・インテリア業界において、最新トレンドを踏まえながら、機能性に優れ、お客さまへ気品ある印象を提供するデザインにこだわりました。

制服デザインのポイント

- 1 清潔・清楚・誠実な印象
- 2 動きやすい機能性と寒暖を調節できる着用時の快適性
- 3 ポイントに「赤」を使用し、クリナップらしさを表現



2018年度上半期 4拠点のリニューアルを実施

移転



堺ショールーム
(5月8日オープン)



金沢ショールーム
(9月23日オープン)

改装



練馬ショールーム
(9月6日オープン)



豊田ショールーム
(9月6日オープン)

クリナップのCSR活動

クリナップ
ハートフル

クリナップハートフル(株)創立10周年記念式典を開催 障がい者の「自律」と「共生」を目指して10年。

クリナップが100%出資する特例子会社、クリナップハートフル株式会社が、10周年を迎えました。

10周年を記念した当式典では、社員名鑑作成などの事前企画から、手話通訳や撮影などの当日運営に至るまで、障がいの有無に限らず社員一人ひとりが知恵を出しあい、役割を務めました。また式中には、リーダー社員による活動発表も盛り込まれ、創業から10年を経て、社員の仕事や自律、地域社会との共生に対する意識も高まっていると感じる機会となりました。



勤続表彰を受賞した社員8名と井上強一会長(右から5番目)とハートフル井上泰延社長(右から6番目)

クリナップの特例子会社
クリナップハートフル(株)

「クリナップにおける各種CSR活動を象徴する企業として、社会に対し心のこもった価値を創造していく」という経営理念を社名に托し、クリナップの特例子会社として2008年3月に創業しました。以来、障がいを持つ社員が「自律」し、地域社会との「共生」を目指し、クリナップグループの施設管理やデータ入力などの事務系業務、地域住民の皆さまへ「心豊かな食・住文化」の発信の場とする「クリ夫のパン屋」の運営などに従事してまいりました。

連結ハイライト情報／連結部門別情報

■ 連結財務ハイライト

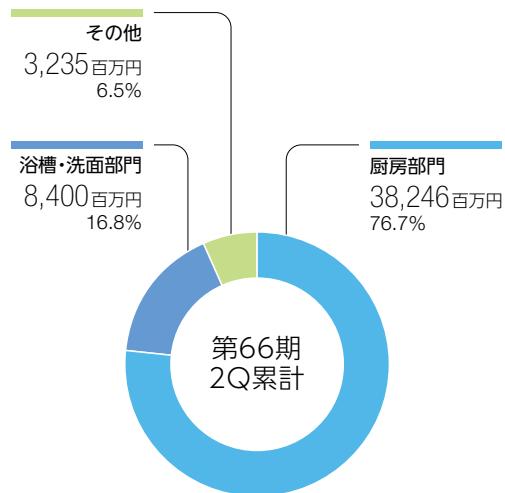
(百万円)

	第65期2Q累計 2018年3月期2Q累計	第65期 2018年3月期	第66期2Q累計 2019年3月期2Q累計
売上高	53,085	107,386	49,882
営業利益又は損失(△)	601	398	△ 1,159
経常利益又は損失(△)	626	418	△ 1,095
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は純損失(△)	316	49	△ 1,286
総資産	86,348	83,374	82,107
純資産	53,005	52,346	50,846

*総資産については第66期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しており、第65期については遡及適用後の数値を記載しております。

■ 部門別売上高(連結)

(百万円)



	第65期2Q累計 2018年3月期2Q累計	第65期 2018年3月期	第66期2Q累計 2019年3月期2Q累計
厨房部門	41,134	83,873	38,246
浴槽・洗面部門	8,724	16,860	8,400
その他	3,227	6,652	3,235
合計	53,085	107,386	49,882

厨房部門の主な商品

高級品クラスのシステムキッチン「S.S. / CENTRO (セントロ)」、中・高級品クラスの「クリンレディ」、普及品クラスの「ラクエラ」、マンション向けシステムキッチン、セクショナルキッチン等で構成されております。

浴槽・洗面部門の主な商品

中・高級品クラスのシステムバスルーム「アクリアバス」、普及品クラスの「ユアシス」等の浴槽関連商品と、洗面化粧台等で構成されております。

第66期第2四半期連結累計期間の営業概況

市場環境

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用環境の改善により景気は穏やかな回復基調にあるものの、米中貿易摩擦やアジア諸国の景気減速等もあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

業績・成果

このような中、当社グループは、2018年9月に、ベストセラー商品「クリンレディ」の思いと実績を引継ぎつつ機能やデザインを磨き上げたシステムキッチン「STEDIA (ステディア)」を新発売するなど、付加価値の高い商品を市場に提供してまいりました。

販売面では、大切な顧客接点であるショールームでの価値提供強化を図るため、全国103か所のショールームにてイベントを開催し、当社の会員登録制組織「水まわり工房」加盟店をはじめとした流通パートナーとの連携も深めながら、需要の拡大、獲得に努めてま

*VE活動: VE(Value Engineering)は、商品・サービスの期待される機能・価格を最低コストで確実に達成するための技術であり、VE活動は生産の現場におけるVE実現に向けた取り組み。

第66期第2四半期連結累計期間の部門別の状況

部門別にみますと、厨房部門では、システムキッチン「S.S. / CENTRO (セントロ)」は数量減、金額増、「クリンレディ」は数量、金額とも減、「ラクエラ」は数量、金額とも減となりました。この結果、厨房部門の売上高は前年同期比7.0%減の382億46百万円となりました。

住宅設備機器業界におきましては、新設住宅着工戸数が前年割れとなり、リフォーム市場も活性化するに至らず、依然として厳しい状況が継続いたしました。

いりました。

生産面では、東西の生産拠点での生産性向上、VE活動(*)を推進し、原価低減に努めてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比6.0%減の498億82百万円となりました。利益面では営業損失11億59百万円(前年同期は6億1百万円の営業利益)、経常損失10億95百万円(同6億26百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純損失12億86百万円(同3億16百万円の純利益)となりました。

浴槽・洗面部門では、システムバスルーム「アクリアバス」は数量、金額とも減、「ユアシス」は数量、金額とも増、洗面化粧台においては数量、金額とも減となりました。この結果、浴槽・洗面部門の売上高は前年同期比3.7%減の84億円となりました。

連結財務諸表

※第66期より「税効果会計に係る会計基準の一部改正」を適用しており、第65期以前については遡及適用後の数値を記載しております。

■ 連結貸借対照表の要旨

(百万円)

流動資産 流動資産は前期末比21億61百万円減少し、482億44百万円となりました。これは商品及び製品が12億87百万円増加した一方、現金及び預金が22億28百万円、受取手形及び売掛金が11億48百万円減少したこと等によります。

固定資産 固定資産は前期末比8億95百万円増加し、338億63百万円となりました。これは有形固定資産が1億6百万円増加、無形固定資産が89百万円増加、投資その他の資産が6億99百万円増加したことによります。

資産合計 総資産は前期末比12億66百万円減少し、821億7百万円となりました。

	第65期2Q 2017年9月30日現在	第66期2Q 2018年9月30日現在	第65期 2018年3月31日現在
(資産の部)			
流動資産	53,142	48,244	50,405
現金及び預金	20,473	17,478	19,706
受取手形及び売掛金	15,540	13,839	14,988
電子記録債権	11,288	11,428	11,480
その他	5,839	5,497	4,228
固定資産	33,205	33,863	32,968
有形固定資産	22,395	22,202	22,096
建物及び構築物	8,801	8,375	8,561
その他	13,593	13,827	13,535
無形固定資産	2,714	2,768	2,679
投資その他の資産	8,095	8,891	8,192
投資有価証券	5,202	5,814	5,223
その他	2,946	3,130	3,023
貸倒引当金	△ 52	△ 53	△ 54
資産合計	86,348	82,107	83,374

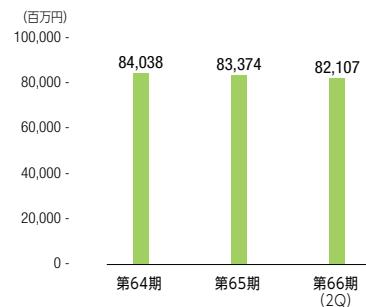
	第65期2Q 2017年9月30日現在	第66期2Q 2018年9月30日現在	第65期 2018年3月31日現在
(負債の部)			
流動負債	25,449	24,215	24,339
買掛金	6,275	6,012	6,373
電子記録債務	6,065	7,377	6,219
短期借入金(1年内返済予定の長期借入金含む)	4,848	3,049	4,659
その他	8,259	7,775	7,087
固定負債	7,893	7,045	6,687
長期借入金	2,493	1,726	1,292
退職給付に係る負債	920	738	915
役員退職慰労引当金	416	416	416
その他	4,062	4,163	4,062
負債合計	33,343	31,260	31,027
(純資産の部)			
株主資本	50,844	48,555	50,211
資本金	13,267	13,267	13,267
資本剰余金	12,351	12,351	12,351
利益剰余金	25,912	23,620	25,276
自己株式	△ 686	△ 683	△ 683
その他の包括利益累計額	2,160	2,290	2,135
その他有価証券評価差額金	1,693	1,905	1,716
為替換算調整勘定	22	28	55
退職給付に係る調整累計額	444	356	363
純資産合計	53,005	50,846	52,346
負債純資産合計	86,348	82,107	83,374

流動負債 流動負債は前期末比1億24百万円減少し、242億15百万円となりました。これは主に、短期借入金が16億9百万円減少した一方、電子記録債務が11億58百万円増加したこと等によります。

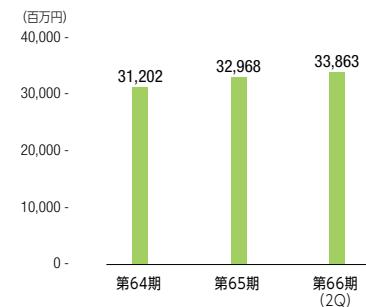
固定負債 固定負債は前期末比3億57百万円増加し、70億45百万円となりました。これは主に長期借入金が4億33百万円増加したこと等によります。

純資産合計 純資産合計は前期末比15億円減少し、508億46百万円となりました。これは親会社株主に帰属する四半期純損失12億86百万円、配当金の支払い3億68百万円等によります。この結果、自己資本比率は、前期末の62.8%から61.9%になりました。

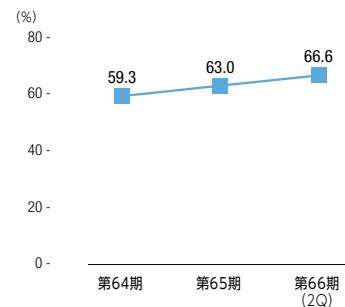
■ 資産合計



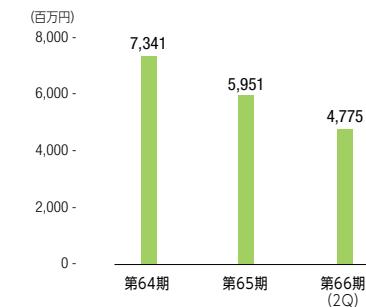
■ 固定資産



■ 固定比率

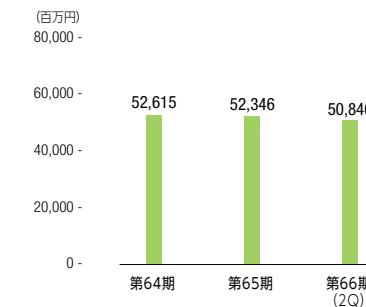


■ 有利子負債

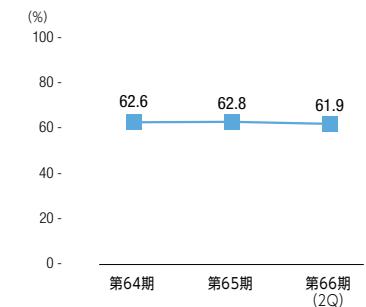


※有利子負債は短期借入金、1年内返済予定の長期借入金、長期借入金の合計。

■ 純資産合計



■ 自己資本比率



連結財務諸表



売上高 付加価値の高い商品の開発・供給、ショールームを起点とした価値提供強化と販売活動などに努めたものの、新設住宅着工戸数が前年割れとなり、リフォーム市場も活性化するに至らず、売上高は前年同期比6.0%減の498億82百万円となりました。

売上原価 VE活動の推進など、原価低減に努めたものの、原材料価格の上昇などから売上原価率が前年同期比0.7ポイント上昇し66.9%となりました。

販管費 経費節減や生産性の向上等に努めた一方で、新商品の開発や販売体制の強化、拡販活動等を積極的に行った結果、販管費は前年同期比3億45百万円増加しました。また、販管費率は同2.8ポイント上昇し35.4%となりました。

営業損失 減収に加え、売上原価率や販管費率の上昇により、営業損失11億59百万円(前年同期は6億1百万円の営業利益)となりました。

親会社株主に帰属する四半期純損失 営業損失の計上を受けて、親会社株主に帰属する四半期純損失12億86百万円(同3億16百万円の純利益)となりました。

■ 連結損益計算書及び連結包括利益計算書の要旨 (百万円)

	第65期2Q累計 2017年4月1日～ 2017年9月30日	第66期2Q累計 2018年4月1日～ 2018年9月30日	第65期 2017年4月1日～ 2018年3月31日
(連結損益計算書)			
売上高	53,085	49,882	107,386
売上原価	35,164	33,376	71,930
売上総利益	17,921	16,506	35,455
販売費及び一般管理費	17,320	17,666	35,056
営業利益又は営業損失(△)	601	△ 1,159	398
営業外収益	296	305	551
営業外費用	271	240	531
経常利益又は経常損失(△)	626	△ 1,095	418
特別利益	171	0	171
特別損失	196	90	239
税金等調整前四半期(当期)純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	601	△ 1,185	350
法人税等	285	101	301
四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	316	△ 1,286	49
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	316	△ 1,286	49
(連結包括利益計算書)			
四半期(当期)純利益又は四半期純損失(△)	316	△ 1,286	49
その他の包括利益	442	155	417
四半期包括利益(包括利益)	758	△ 1,131	466

■ 連結キャッシュ・フロー計算書の要旨 (百万円)

	第65期2Q累計 2017年4月1日～ 2017年9月30日	第66期2Q累計 2018年4月1日～ 2018年9月30日	第65期 2017年4月1日～ 2018年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,317	1,079	2,935
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,763	△ 1,636	△ 2,338
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 463	△ 1,648	△ 2,307
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 13	△ 23	20
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 922	△ 2,228	△ 1,690
現金及び現金同等物の期首残高	21,896	20,206	21,896
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高	20,973	17,978	20,206

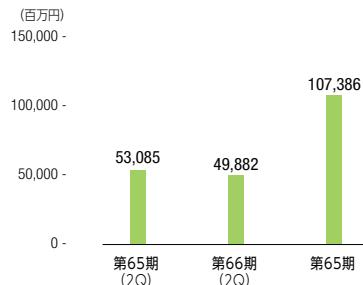
営業活動によるキャッシュ・フロー
営業活動の結果得られた資金は10億79百万円(前年同期比18.1%減)となりました。これは減価償却費が18億16百万円、売上債権の減少19億18百万円があった一方、税金等調整前四半期純損失が11億85百万円、たな卸資産の増加17億55百万円があったこと等によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フロー
投資活動の結果使用した資金は16億36百万円(前年同期比7.2%減)となりました。これは生産設備の改修、ショールーム移転・改装等により有形固定資産の取得による支出が7億22百万円、情報システム構築に伴う無形固定資産の取得による支出が5億78百万円あったこと等によるものです。

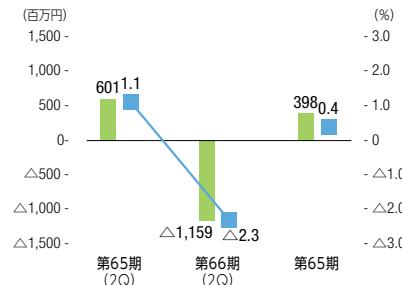
財務活動によるキャッシュ・フロー
財務活動の結果使用した資金は16億48百万円(前年同期比255.7%増)となりました。これは長期借入金による純増が7億33百万円あった一方、短期借入金の返済による支出が19億10百万円、配当金の支払いが3億68百万円あったこと等によるものです。

現金及び現金同等物の四半期末残高
現金及び現金同等物の四半期末残高は前期末に比べ22億28百万円減少して179億78百万円となりました。

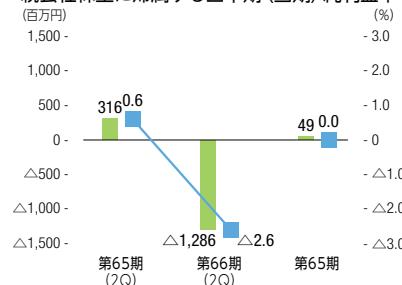
■ 売上高



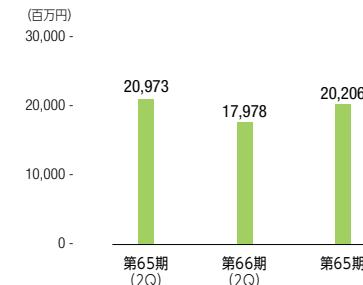
■ 営業利益・営業利益率



■ 親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益・親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益率



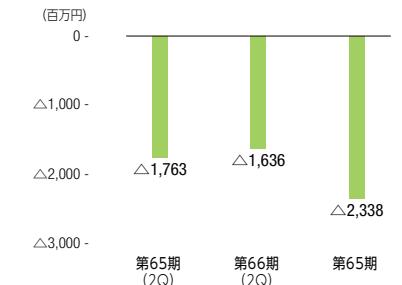
■ 現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高



■ 営業活動によるキャッシュ・フロー



■ 投資活動によるキャッシュ・フロー



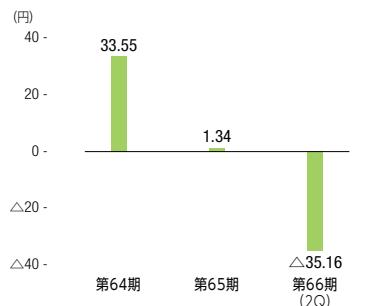
株式関連情報 (2018年9月30日現在)

■ 剰余金の配当について

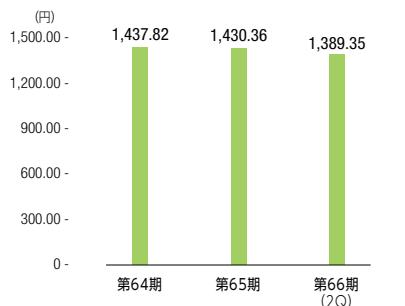
当社は、株主の皆さまに対する利益還元を重要な経営方針の一つとして考えており、配当につきましては、収益の状況及び将来の事業展開を勘案し安定的な配当の継続を基本として、決定しております。

以上の方針に基づき、中間配当金は、1株当たり10円とさせていただきます。また、当期の年間配当金は、中間配当を含め1株当たり20円を予定しております。

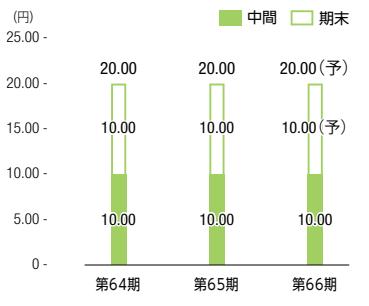
■ 1株当たり純利益



■ 1株当たり純資産

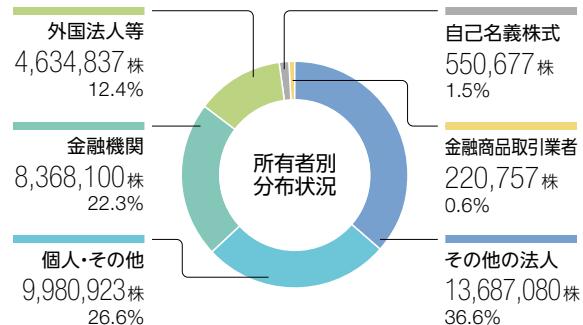


■ 1株当たり配当金



■ 株式の状況

発行可能株式総数 130,000,000 株
 発行済株式総数 37,442,374 株
 株主数 3,815 名



■ 大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
株式会社井上	8,609	23.3
クリナップ真栄会	1,993	5.4
株式会社タカヤス	1,829	4.9
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,802	4.8
クリナップ共進会	1,673	4.5
クリナップ社員持株会	1,591	4.3
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,018	2.7
株式会社三菱UFJ銀行	757	2.0
三菱UFJ信託銀行株式会社	693	1.8
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	625	1.6

(注) 持株比率は、「株式付与ESOP信託口」が保有する自己株式(294,440株)を除いた自己株式(550,677株)を控除して計算しております。

会社情報 (2018年9月30日現在) / 株主メモ

■ 会社概要

商号 クリナップ株式会社
 Cleanup Corporation
 本社所在地 〒116-8587
 東京都荒川区西日暮里6丁目22番22号
 電話 03-3894-4771(大代表)
 創業 1949年10月5日
 会社設立 1954年10月5日
 上場 1990年2月6日 東証2部上場
 1991年9月2日 東証1部指定
 資本金 132億6,734万円
 主要営業品目 厨房機器、浴槽機器、洗面機器、その他
 社員数 連結：3,571名/単体：2,980名
 主な事業所 支社：国内3か所
 支店：国内4か所
 営業所：国内132か所(出張所含む)
 海外：香港、台湾、上海
 工場：四倉、鹿島システム、湯本、クレート、鹿島(いずれも福島県いわき市)
 岡山(岡山県勝田郡勝央町)
 津山(岡山県津山市)

■ 役員

代表取締役会長	井上 強一	取締役	川崎 享*
代表取締役社長執行役員	竹内 宏	取締役	千代田有子*
取締役副社長執行役員	小島 輝夫	常勤監査役	山根 康正
取締役専務執行役員	島崎 憲夫	常勤監査役	藤本 真一
取締役専務執行役員	山田 雅二	監査役	新谷 謙一*
取締役常務執行役員	大竹 重雄	監査役	有賀 文宣*
取締役常務執行役員	川田 和弘		

*は社外

■ 株主メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
 期末配当金 3月31日
 受領株主確定日
 中間配当金 9月30日
 受領株主確定日
 定時株主総会 毎年6月
 上場証券取引所 東京証券取引所 市場第一部
 電子公告により、下記当社ホームページに掲載いたします。なお、やむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
 電子公告掲載 URL <http://cleanup.jp/>
 単元株式数 100株

【株式に関するお手続きについて】

- 証券会社等の口座に記録された株式
 株主様の住所変更、買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等(口座管理機関)にお問合せください。
- 特別口座に記録された株式
 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。
- 未受領の配当金
 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行証券代行部までお問合せください。

【株主名簿管理人/特別口座の口座管理機関】

三菱UFJ信託銀行株式会社
【同連絡先】
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
 東京都府中市日鋼町1-1
 電話:0120-232-711(通話料無料)
 郵送先:〒137-8081
 新東京郵便局私書箱第29号
 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部